

平成22年5月26日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520102
研究課題名（和文） 東南アジア近代美術の形成に果たした日本の役割—戦中期を中心に
研究課題名（英文） Japanese Involvement in the Formation of Modern Art in Southeast Asia Before 1945

研究代表者
後小路 雅弘（USHIROSHOJI MASAHIRO）
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：50359931

研究成果の概要（和文）：

東南アジア近代美術の形成過程においては、日本が、とりわけ太平洋戦争における日本軍による占領と軍政が、功罪両様の意味で、一定の役割を果たしている。本研究は、これまで日本美術史研究がほとんど問題にしてこなかった東南アジア近代美術の誕生と展開に対する日本の関与を、現地調査による関係者インタビューや資料収集によって具体的に検証し、その実情の一端をあきらかにした。

研究成果の概要（英文）：

Although largely ignored by art historians in Japan thus far, the Japanese military rule and administration during the Pacific War played certain roles in the formation of modern art in Southeast Asia. This research project shed light upon the roles of Japanese involvement in the early phase of modern art in Southeast Asia through interviewing those involved and collecting primary source materials.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：美学・美術史

科研費の分科・細目：哲学・美学美術史

キーワード：

東南アジア近代美術 美術交流史 日本軍政 宣撫工作 啓民文化指導所 華人美術研究会 カリバピ 仏印現代美術展

1. 研究開始当初の背景

- ① 報告者（本研究代表者・後小路雅弘）は、長く美術館学芸員としてアジアの近代／現代美術の紹介、そして調査研究に取り組んできた。1978年から20年間は福岡市美術館学芸員として、世界初のアジアの現代美術展（アジア美術展）の企画に関わり、以後も同展の継続的開催に尽力してきた。また1997年には「東南アジア近代美術の誕生」展によって、類例のない東南アジアの近代美術の歴史を回顧する大規模な企画を実現した。一方そうした活動は、アジアの近現代美術を中核に据えるユニークな美術館「福岡アジア美術館」につながった。報告者は、同美術館の設立準備から開館後まで（2002年まで）その中心的な地位（学芸課長）にあって、展覧会や所蔵品収集、調査研究活動などを主導した。2002年後半からは、九州大学大学院教授として、東南アジアを中心に、非欧米世界の美術におけるモダニズムの受容について研究している。
- ② 東南アジアの近代美術の形成過程には、日本の関わりが、功罪併せて、小さくない。報告者は1978年以降、東南アジアの近代美術について調査、研究、キュレーションを行う中で、そのことを認識し、日本の側から、太平洋戦争期の日本軍政の果たした役割をはじめ、日本人の関わりを具体的に明らかにする必要性を感じるようになった。とりわけ日本近代美術史研究において、そのような問題意識が見られないことに危惧を感じていた。

2. 研究の目的

東南アジア近代美術の形成過程には、日本が、とりわけ太平洋戦争における日本軍の占領、軍政と民衆への宣撫工作が関与している。本研究は、これまで日本美術史研究がほとんど問題にしてこなかった東南アジア近代美術の誕生と展開に日本が果たした役割を検証し、その実情をあきらかにし、近代日本と東南アジア諸国との知られざる美術交流史を、負の歴史を含めて、あきらかにすることを目的とするものである。

3. 研究の方法

以下の項目について、東南アジア現地調査による関係者インタビューや関連作品撮影、資料収集ならびに日本国内における資料収集を行った。

- ① 昭和前期に東南アジアに滞在し、現地の関係者と交流を持った少数の人々の活動とその影響
- ② 日本軍による占領支配地域での軍政の果たした役割。とりわけ（A）インドネシア・ジャワ島における啓民文化指導所、フィリピンにおけるカリバピ、タイやベトナムにおける日本文化会館などの組織的活動とその影響、（B）ベトナムを巡回した日本現代美術展や、日本を巡回した仏領インドシナ現代美術展などの美術展活動
- ③ 上記の日本占領期に東南アジアに滞在した日本人美術家たちの言説や滞在中の作品
- ④ 日本軍によって阻害された近代美術運動の実態（主要メンバーが日本軍に虐殺されたシンガポールの華人美術研究会をはじめ、フィリピンの13モダーンズ、インドネシアのプルサギなど）
- ⑤ 戦前・戦中期の日本に滞在した東南アジアの数少ない美術家たちの日本経験が戦後の東南アジア諸国の美術に与えた影響

4. 研究成果

- ① 昭和前期に東南アジアに滞在し、現地の関係者と交流を持った人々の活動とその影響について現地調査を行った。
- ② 日本軍による占領支配地域での軍政の果たした役割について。（A）インドネシアについては、軍政期に頭角をあらわした画家スリハディにインタビューし、日本占領期のジャワにおける美術活動について、その一端が明らかになった。（B）フィリピンにおいては、軍政期にKALIBAPIが主催した公募美術展（ヴィクトリオ・エダデスが審査委員長を務めた）など、日本軍の美術行政の実態を、同時代の資料（邦字紙『マニラ新聞』、英字紙『ト

リビューン Tribune』、ほかにグラフ雑誌『新世紀』など)を現地で調査収集し、検討することで、その輪郭を明らかにすることができた。(C)昭和16年に仏領インドシナを巡回した日本現代美術展や、昭和18年に日本を巡回した仏領インドシナ現代美術展などの美術展活動についてベトナムと日本で資料収集を行い、関係者にインタビューをした。その成果は、「昭和18年の日本旅行—ベトナム人画家ルオン・スアン・ニーの日記から—」『哲学年報(九州大学大学院人文科学研究院)』第69輯(2010年)に発表した。

- ③ 日本占領期に東南アジアに滞在した日本人美術家たちの言説や滞在中の作品について調査した。
- ④ 日本軍によって阻害された近代美術運動の実態については、シンガポールの華人美術研究会の幹部であったHo Kwong Yewの息子何国豪Dr Ho Kok Hoeにインタビューをし、その貴重なコレクションを調査した。当時日本軍によって華人美術研究会の幹部会員が殺害されたが、会長の張汝器と父親の逮捕時の状況について貴重な証言を得た。また、当時のシンガポール美術界で重要な役割を演じた林学大の息子林友権に、当時のことを聞くとともに、その著名な日本軍政期を描いた作品について聞いた。
- ⑤ 戦前・戦中期の日本に滞在した東南アジアの数少ない美術家たちの日本経験について、昭和16年から昭和21年まで日本に滞在して、東京美術学校に学んだタイのチト・ブアプトにインタビューをし、日本滞在中の活動について聞いた。またベトナムでは、昭和18年に日本旅行をしたベトナム人画家3名について、遺族と面談した。とりわけそのうちのひとりであるルオン・スアン・ニーの息子2名と会い、日本滞在中に制作された作品の写真撮影を行い、また訪日日記の写しや多くの写真資料などを収集した。これまで詳細についてはまったくわかっていなかった、仏印現代美術展の日本巡回と来日作家の事跡についてかなりの部分明らかにすることができた。その成果は、「昭和18年の日本旅行—ベトナム人画家ルオン・スアン・ニーの日記から—」『哲学年報(九州大学大学院人文科学研究院)』第69輯(2010年)に発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

- ① 後小路雅弘 昭和18年の日本旅行—ベトナム人画家ルオン・スアン・ニーの日記から—哲学年報(九州大学大学院人文科学研究院) 査読無 第69輯 2010 pp.225-252
- ② 後小路雅弘 東南アジア島嶼部の近代美術—フィリピン、インドネシア、シンガポール、マレーシア、美術フォーラム21 第21号 2010年 pp.89-91
- ③ 後小路雅弘 東南アジア大陸部の近代美術—ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、美術フォーラム21 第21号 2010年 pp.93-95

[学会発表](計3件)

- ① 後小路雅弘 〈大東亜〉戦争と美術交流—仏領インドシナの場合、第16回アジア近代美術研究会、2009年4月25日 福岡アジア美術館
- ② M.Ushiroshoji, The Vietnamese Artists' Journey to Japan in 1943, Symposium on Modern and Contemporary Vietnamese Art, Singapore Art Museum 2008.5.16
- ③ 後小路雅弘 帝国日本の植民地・占領地における〈公〉の美術—官設美術展覧会と宣撫工作—、第12回アジア近代美術研究会、2008年7月19日 福岡アジア美術館

[図書](計3件)

- ① 後小路雅弘、他、東京文化財研究所、昭和期美術展覧会の研究 戦前篇、2009年 pp.47-61
- ② M.Ushiroshoji, et al., Singapore Art Museum, Essays on Modern and Contemporary Vietnamese Art, 2008, pp.23-26
- ③ 後小路雅弘、他、東京都現代美術館、『タイ王国 現代美術展 みてみタイ』(展覧会図録) 2007年 pp.131-133

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

後小路 雅弘 (USHIROSHOJI MASAHIRO)
九州大学・大学院人文科学研究院・教授
研究者番号：50359931

(2) 研究協力者

堀川 理沙 (HORIKAWA LISA)
福岡アジア美術館・学芸員

羽田ジェシカ (JRSSICA T. LYU-HADA)
九州大学非常勤講師

高山百合 (TAKAYAMA YURI)
九州大学大学院人文科学府・博士後期課程
1年

古沢ゆりあ (FURUSAWA YURIA)
九州大学大学院人文科学府・修士課程2年